

第4章 海東剣道の創造と展開



〈写真 14〉海東剣道(MOOKAS より)

海東剣道は韓国で生まれた新しい武芸の1つである。

これまで竹刀打ちの剣道が一般的であったのに対し、海東剣道は木剣や真剣を使って形や太刀筋を錬るのを主な目的としている。この新しい方法、特に真剣を使うことが、それまでなかった新しい剣道文化として一般の人々に多く受け入れられたのである。そして、竹刀打ち剣道が日本から輸入されたものであるのに対して、海東剣道は韓国出自の伝統武芸であるとの言説によって、韓国社会における正統性を主張するのである。

海東剣道は1980年代に金正鎬と羅漢一によって創られた。2人は高校の同級生で、共に武芸を習っていた。現在、金正鎬は「世界海東剣道連盟」の代表、羅漢一は「韓国海東剣道協会」の代表として活躍している。

2人によって80年代に始まった海東剣道は、現在24の団体を有するに至っている。文

化体育観光部の「生活体育関連法人現況」（2008年8月）によると、社団法人として登録されている剣道団体数は61であるが、その中で海東剣道を名乗る団体は、全体のほぼ3分の1を占める24である。その名前も「伝統武芸海東剣道連盟」、「国際海東剣道総連盟」、「民族海東剣道会」、「海東正統剣道協会」、「韓国海東剣道連合会」¹などさまざまである。しかし、この24の団体にはこれを支える下部道場が存在するため、海東剣道に分類される実際の組織的規模は、相当大きいものであるといえる。例として、「世界海東剣道連盟」の場合は、韓国国内の道場数は560に及んでいるのである²。

全ての海東剣道団体がそのような状況ではないが、その量的な数からは、海東剣道が現在の韓国社会に広く根を張っていることは確かであるといえる。

本章では、海東剣道の中心的組織である「世界海東剣道連盟」と「韓国海東剣道協会」とを取り上げ、海東剣道が創られてゆく過程を再構成し、そこに見られる海東剣道アイデンティティについて述べる。

第1節 海東剣道の創造過程

1. 海東剣道の説話づくり

説話は世界中から報告があり、それは人や宇宙や民族の起源を語る神話から、なぜ海は塩からいかを説明するものまで多様である。そしてそれは武芸においても珍しいことではない。

日本の剣術流派である陰流にはその流祖である、

「移香齋は幼いころより刀槍の術を好み、長享元年（1487）鵜戸権現の岩屋に参籠し、断食齋戒、17日の工夫を重ね、満願の未明、夢に神は猿の形に顕れ奥伝を示し、夢想一卷の書を授けられ、ここに大悟して一流を開き、諸国を修

¹ 文化体育観光部、「生活体育関連法人現況」、2008

² 世界海東剣道連盟、<http://hdgd.org>、2010年1月22日

行して陰の流と号した³⁾

と伝わっており、陰流の流祖である愛州日向守移香斎が猿となって現れた神から流儀を学んだことになっている。

また、柔術流派である竹内流では、流祖である竹内久盛が

「6日6夜にわたって断食の修業を行った・・・『汝に一術を授けん』と言う老翁に、久盛は愛愛宕神の化身と思い、木剣を手に立ち合った。しかし、難なく久盛を膝下に組み敷いた老翁は、『長刀に易なし』と木剣を2つに折り、『これを携え、これを帯せば小具足なり』として小太刀による武術と7尺5寸の縄による武者搦めの術を授けた⁴⁾

とされ、その時授かった技をまとめ竹内流を創始したと伝わっている。

このように武芸流派に伝わる説話は、もちろん歴史的根拠は明確でないものの、その流儀に歴史性と正統性そして伝統的権威を付与するのに使われているといえる。

(1) 「世界海東剣道連盟」による海東剣道起源説話

上記の如く海東剣道は1980年代に始まるものの、「世界海東剣道連盟」のホームページでは海東剣道は高句麗から伝わる武芸となっている。以下はホームページの内容である。

「海東剣道は、韓民族の5千年の歴史の中で、最も強盛であり韓半島と満洲を含めた東北アジア全域を支配した古代国家高句麗の伝統武芸として、朝まだき東海の上に浮び上がる荘厳で燦爛たる太陽の光を剣に盛った『剣光』として、正義を实践する真理を意味する。

海東剣道は剣潔の真理を悟った『ソルボン: 설봉仙人』が創始し、白頭山に修練道場を開き、弟子たちに悪を退け正義を实践するように海東剣道を伝授したも

³⁾ 森田栄 編、『日本剣道史 創刊号』、日本剣道史編纂所、1963、p.7

⁴⁾ 横瀬知行、『日本の古武道』、日本武道館、p.157

のである。

この道場で『忠・孝・礼・義・信・智・徳・体』を理念として修練した武士たちは『サムラン』と称せられ、彼らサムランはそののち広開土大王（日本名：好太王）を補佐し、優れた海東剣道の力を遺憾なく発揮して、侵略してきた周辺国家を征伐することで、高句麗が広闊な国土を持った最強の国家として発展するのに大きく貢献した。

また、サムランは高句麗の名将である乙支文徳大將軍とともに 200 万の中国・周軍（精鋭兵 100 万人、予備輸送軍 100 万人）の侵略を追い払う歴史上稀有な大戦果をあげたことがあり、また唐の侵略時には梁満春將軍を補佐して安市城で、唐軍 60 万を追い払うなど、一騎当千の不屈の闘魂を發揮して子孫たちに貴い護国魂を植え付けてくれた。

その後、一部のサムランは日本に渡って『サムライ』に変称されたが、それは『キンチ』が日本に渡って誤って『キムチ』と発音され、世界に知られるようになったのと同じである。

近世に至って私（筆者注：世界海東剣道連盟総裁）は冠岳山において長白山師匠から直接に伝授を受け、以来 20 年余、国内は勿論、アメリカ、カナダ、メキシコ、南米、ヨーロッパ、東南アジア、中国、オーストラリアなど全世界主要国家に海東剣道を普及することで、韓民族伝統文化の継承発展と世界文化発展に貢献すべく努めてきた・・・⁵」

こうして「世界海東剣道連盟」は、海東剣道が正義を實踐する武芸であり、高句麗時代のソルボン仙人によって創始されたものであると説明している。しかもその道場が有名な壇君神話に出る韓民族發生の地白頭山に求められている事が注目される。そして、ソルボン仙人から海東剣道を学んだサムランという集団が、高句麗史上とりわけ優れたはたらきをした將軍であった乙支文徳と梁満春が指揮する戦闘で大活躍したと述べ、歴史的事実とサムランとを関連づける戦略をとっていた。

また、近代については、

⁵ 世界海東剣道連盟、前掲ホームページ

「私は 1961 年から京畿道冠岳山の天人寺において、長白山師匠から伝授を受け、それを現代に合うように変更し、1982 年 7 月 24 日に京畿道安養に最初の海東剣道道場を設立して普及をし始めた。そして 1984 年 4 月 10 日ソウルの瑞草区瑞草洞に『大韓海東剣道協会』(1989 年 5 月 25 日：社会団体登録)を設立し、また海外普及のため 1996 年 11 月 25 日に社団法人である『世界海東剣道連盟』を創った⁶⁾

と述べ、金正鎬自身を長白山師匠から学んだ中興の祖と位置づけている。

(2) 「韓国海東剣道協会」による海東剣道起源説話

「韓国海東剣道協会」は、「世界海東剣道連盟」の金正鎬とは高校の同期であった羅漢一を中心とする団体である。この 2 人は海東剣道創始の以前から同じ流派の武芸を学ぶほど、密接な関係であったことが知られている。そして、現在は「世界海東剣道連盟」と対立する立場にある。

こうした経緯を踏まえて両者の海東剣道の起源に関する記述を見ると、多くの共通点が認められる。以下は、武芸雑誌 MARS (2001 年 5 月) に記載された「韓国海東剣道協会」側の起源に関する記述である。

「海東剣道は古代高句麗 15 代、美川王の 13 年に、部族国家の社会慣習であった『ゼガスン：제가승制度』という教育方法に始まる。それは弓術、拳術、槍術、剣術、馬術などによって身体を鍛錬し国力を養うものであり、新羅の花郎、百済の武士道『サウラビ：사울아비』と通応する武芸として発展してきた。

高句麗 16 代、故国原王 2 年に白頭山脈でソルボン仙人が、仙人を尋ねた青年らに武芸を教えた。これが始祖伝説として伝わっている。そうした青年のうちで功績をあげた者をサムランと称し賛えた。

その最も優れたサムランの内に海東武士がおり、長白山に修練場を設けて多くのサムランを養成した。国が危機に直面した時、多くのサムラン功を立てる活躍

⁶⁾ 世界海東剣道連盟、同ホームページ

をした。そのため、国は彼らに多くの奨励、褒賞を贈った。忠、孝、礼、義、信、志の理念を士門の正道と定め、心身修練の正道として伝わっており、高麗始祖である王建の建国に貢献したキムジョンギも海東道場で修練したサムランであった。

我々の先祖たちは竹を 6 つに割った竹刀をもって剣術競技を行ったが、身体が小さい倭人は自分たちに合わせた 4 つ割りの竹刀を使用した。そして日本の南部地域で剣術よりも竹刀術を発展させたため、剣道術を正しく知らない倭人たちは、竹刀が剣のすべてであるような錯覚を起こしている。だが、剣道は文字どおり真剣を使うことを意味し、そこで海東剣道は昔から伝承される外功、内功、剣法、丹田呼吸、撃剣術を一体させた真剣を使うわが国固有の武道であり他の剣道とは概念が根本から違っている」

このように、「韓国海東剣道協会」側が、①海東剣道は高句麗から伝わる武芸であること、②始祖はソルボン仙人であること、③海東剣道を修練した集団をサムランと称したことは、「世界海東剣道連盟」と同じである。

しかし、高句麗のゼガスン制度や百済のサウラビといった武芸文化への言及、高麗時代の武士が海東剣道の剣士であったとの指摘、そして日本の剣道が 4 つ割りの竹刀を使うのに対し、韓国は 6 つ割りの竹刀使ったとして、日本との比較を通して海東剣道の韓国固有性を主張した点が違っている。

2. 海東剣道の起源に関する裁判

こうした海東剣道の起源については特に検討されることなく、海東剣道修練者の間ではその主張が真実として認知されていた。

次に扱うのは両海東剣道団体間で起きた裁判の記録である。裁判の過程で、海東剣道が創られた背景と具体的な内容が明らかになった。

(1) 法廷での証言

金正鎬と羅漢一の対立は、羅漢一が韓国海東剣道協会を結成した 1992 年頃から始まっ

たと見られる。羅漢一が協会を設立して独自の行動、つまり彼が芸能人という立場を利用して海東剣道を広く世に知らせたことで、海東剣道の正統性をめぐる問題が両者の間で起こることになった⁷。

金正鎬とその連盟の人達は、羅漢一とその協会を誹謗する目的で、羅漢一が特許庁から海東剣道を詐称したと断罪されたこと、投資での損失を補うため芸能人という地位を利用して海東剣道の名称を不法使用したこと、心剣道の技を海東剣道と偽称して行っているなどの内容を記した文書を羅漢一の協会所属の100余の道場に発送したのである。

この行為が有罪と認められ、金正鎬には懲役1年（2年間の執行猶予）と200時間の社会奉仕の判決が下された。

以下は羅漢一が裁判で証言したものであり、海東剣道の創始が語られている。

「水原地方法院・城南支院の第5回公判調書
事件番号 99 後段 1738 名誉毀損証人訊問調書

問：証人（羅漢一）は、双手剣法、心相剣法、鋭刀剣法、本国剣法、長白剣法、陰陽剣法、太極剣法、海東剣法、双剣法を知っているか？

答：証人（羅漢一）は、双手剣法、心相剣法、鋭刀剣法、本国剣法、双手剣法は分かるが、長白剣法、陰陽剣法、太極剣法、海東剣法は知らない。

問：証人（羅漢一）は、誰から上のような剣法を習ったか？

答：証人（羅漢一）と被告である金正鎬は、公訴外キム チャンシクからまず『心剣道』、次に『気天門』を習い、心剣道と気天門は剣の基本になった。双手剣法は証人（羅漢一）が作り、心相剣法、鋭刀剣法は証人（羅漢一）と被告である金正鎬が作った。本国剣法は証人（羅漢一）と被告である金正鎬が『武芸図譜通志』を見て現実にふさわしい形に改めたもので、海東剣道は学んだのではなく心剣道や気天門その他すべての運動を混合して、現実に合うように合成したものである。

問：上のキム チャンシクの心剣道の中にも、双手剣法、心相剣法、鋭刀剣法、本国剣法があるか？

⁷ MARS、「法廷が書いた海東剣道の歴史」2001、5・6月号、pp.54~55

答：ない。しかし剣の基本は心剣道と気天門である。

問：証人(羅漢一)は『海東剣道』という言葉が 1982 年頃に初めて使われた事実を知っているか？

答：はい。

問：この用語は誰が作ったのか？

答：公訴外チェ テミン牧師である。

問：証人は 1983 年頃、被告である金正鎬と一緒に心剣道体育館を運営しているが、途中で辞めた事実があるか？

答：看板だけを変えて、運営は続けた。

問：証人は心剣道と海東剣道が互いに異なる内容の剣道であった事実を知っているか。

答：別のものではなく、連関性がある⁸⁾

こうした証人訊問調書によってまず明らかになったのは、海東剣道が金正鎬と羅漢一によって創られたものであったことである。彼らは高校の同期生として心剣道と気天門を学び、彼らの剣の基本にしたのであった。そして、海東剣道を構成している諸剣法は、2 人が他の武芸から取り出して再構成したものであった。また、海東剣道という名称は、チェ テミン牧師が創ったものであった。そして、主に片手を使う心剣道の剣技に気天門の身体技法と鍛錬法を取り入れて、主に両手を使う双手剣法を創作したのであった。

このことにより両団体で主張している高句麗から始まるという起源説は虚構であり、またソルボン仙人を含めた歴史的な記述も彼らの創作であったことが明らかになったのである。

(2)判決文

金正鎬はともに海東剣道を創始した羅漢一を排除した上で、海東剣道を 1 つの商品として 1 人占めしようとしたのである。

金正鎬と世界海東剣道連盟は羅漢一と韓国海東剣道協会に対して、海東剣道という名称

⁸⁾ 水原地方法院・城南支院 判決文、事件番号 99 後段 1738 名誉毀損、2001

を使えないように告訴したのであった。

しかし、海東剣道は金正鎬と羅漢一が共同して創始したこと、海東とは元々韓国を示す言葉として存在していたこと、海東剣法が韓国伝来のものとして誰かによって創られた特定の型や剣法を示さないこと、そして、すでに多数の道場が海東剣道の名称を使って活動していることから、判決は金正鎬による独占使用を認めなかったのである⁹。

公判の中で海東剣道の成立していく過程が明らかになった。

以下はその裁判の決定文である。

「ソウル高等法院第4民事部 決定

事件番号 97 ラ 91、不正競争行為中止仮処分

原告・抗告人：世界海東剣道連盟（金正鎬）、被告・相手：羅漢一

イ。認定事実

・・・それ故、察するが記録によると下のような事実が認められる。

(1)被告と原告の代表者である金正鎬とは、ソラボル高等学校の同期生で高等学校在学時代の1970年頃、ソウル新堂洞にあった『心剣道護法総館』に入館して、キム チャンシク館長の指導の下で心剣道を学ぶなど一緒に武術を学び親しく過ごしていた。

(2)1975年頃、上記のキム チャンシクがアメリカに移民することになり、被告は上記の法総館を引き受けて(その頃金正鎬とは疎遠であった)運営した。1977年頃運営不振によってこれを閉館した後、また申請外のパク デヤンから『気天門』の師事を受け、1980年の初めの頃はヒョンジン映画社のキム トゥウオン会長の後援で、ソウル瑞草洞 63 の 6 シンヨンビル 301号に『気天門』という名の剣道場を開設した。(その後『気天門』は『心剣道体育館』と改称して、『協賛映画社武術スタジオ』と併記した看板を使っていた)

金正鎬は1982年頃上述瑞草洞の道場で再び被告と一緒に働くようになった。(原告は当時原告が上記の道場の館長であったと主張していることに対して、被告は被告の勧誘で原告が師範として働くようになったと主張しているが、記録に

⁹ ソウル高等法院第4民事部、事件番号 97 ラ 91、不正行為中止仮処分、1998

表れた当時の上記の体育館の規模及び運営状況などに比べ、これはあまり重要な問題ではない)

(3)一方、被告は上記の道場を運営中であった1984年頃、上記の道場で剣道を学んでいた公訴外 亡チェ テミンの提案によって当時上記の道場で使っていた『気天門』という名称に代わり『海東剣道』という名称を使い始めた。(原告は原告が1961年頃、公訴外長白山から我が国伝来の剣法の伝授を受け、同時に、その剣法の名前を海東剣道と称するのが適切であるという長白山の教えを奉じて1983年4月頃、これを広く伝授させようとソウル江南区瑞草洞 63の6に道場を開館して、その名を『海東剣道』として初めて使ったと主張するが、上記伝授当時の原告の年齢、海東剣道という名称を使うようになった経緯、上記の名称使用に関する原告の主張が、原告側の証人である金ジョンソンの証言、すなわち原告が1982年頃安養で『海東剣道体育館』を開館して海東剣道という名称を初めて使ったという部分とも一致しない点などで、これをそのまま受け入れるのは難しい。

1984年5月頃に、被告は『海東剣法概論』という題名の被告が編著者である海東剣道の紹介書を発行し、また劇映画武術研究会員選抜大会に『海東剣道協会』という名前で、上記の道場をその選抜場所として提供するなど後援したこともあるが、正式に協会が結成されるほどその加入者の数と組織が整えていたわけでもなく、上記の道場以外に海東剣道を教える道場が他に存在したわけでもなかった。

1984년 5월 15일 화요일

회원선발

이두용 극영화 무술연구회

★기획진품
 ○이두용 감독 프로빙
 ○피막(1982년 칸느영화제 수상)
 ○공룡야, 공룡야(1984년 칸느영화제 수상)
 ○취부의 영인
 ○풍드리동
 ○초본
 ○결합편의 디수

★기회진품
 ○이두용 감독 프로빙
 ○피막(1982년 칸느영화제 수상)
 ○공룡야, 공룡야(1984년 칸느영화제 수상)
 ○취부의 영인
 ○풍드리동
 ○초본
 ○결합편의 디수

★신청인원 : 00명
 ★서류 : 자기소개서 1통, 영감편사진 2매, 전신사진 1매
 ★접수기간 : 1984년 5월 16~19일까지
 ★주소 : 서울특별시 서초동 63-6 신영B/D 3층 (영동 제일생명본점 영육자동차대원앞)
 ※지방인은 서류 동봉 접수요(지방인은 숙식 가능함)
 ★접수 : 해동검도도장
 ★선발된 자는 본회의 MOOKAS에 참여함
 주최 : 영화감독 이두용 극영화 무술연구회
 후원 : 해동검도협회 Tel 556-5374

〈写真 15〉 1984年 5月 15日、劇映画武術研究会員選抜の新聞記事(MOOKASより)

「海東劍道協會」の名と上記の道場の住所が選抜場所として記されている

(4) 『海東劍法概論』は劍道の基本と技以外に、我が国伝来の『心相劍法』、『双手刀』、『鋭刀』、『本国劍法』、『長白劍法』、『双劍』、『擊劍』の實際の形を原告の実技写真を使って紹介しているので、『海東劍法』とはこうした韓国伝来の劍法を通称して命名したもので、原告と被告によって創案された新しい型の劍法ではない。

(5)ところで 1985 年の初め頃、上記の劍道館の後援者だったヒョンジン映画社が不渡りにあうと、被告は上記の劍道館の運営を中断することになり(被告はすべて上記の劍道館を閉めて、被告と原告は他の仕事をしたと主張するが、被告

が運営を中断した以後にも上記の道場は原告によって続けられていたと思われる)、その後原告は公訴外のナ ジョンギョンの助けで 1986 年 6 月ソウル江南区三成洞に『海東剣道』という名の剣道場を開き、被告は海東剣道研究所長という肩書きで、上記の剣道場の総館長であった原告と一緒に「海東剣道」の普及に力をつくすようになった。

(6)上記の三成洞の道場は 1987 年 2 月 3 日、設立者を金ヒョンジン、定員を 150 人として、ソウル市江南教育区役所に『海東剣道体育道場』という名称で正式に登録された。同年 4 月 6 日には商号を『海東剣道体育道場』、代表者を金ヒョンジン(同年 9 月 21 日 ナ ジョンギョンを代表者に追加した)にして事業者登録を終えた。

一方 1989 年 5 月 10 日、代表者をキム ヒョンジンとする『大韓海東剣道協会』が組職され、同月 25 日に全北教育委員会に社会团体として正式登録された。同年 12 月 29 日にはソウル特別市から、業種は体育施設業、営業所の名称は海東剣道体育道場、代表者をキム ヒョンジン、住所を上記の三成洞道場とした体育施設業申告証書が交付された。(この一連の過程で原告が代表者として登録されたことはない)

(7)海東剣道は 1989 年の始めの頃でも一般人にはおろか剣道界でもよく知られていなかったが、1989 年 6 月頃に被告が主人公の劉志光役で出演したテレビ劇『無風地帯』が視聴者の人気をあつめるようになり、そこで放映された体力鍛錬と剣道が海東剣道であった。被告がその海東剣道の有段者であるということが知られてから社会に広く知られるようになり、海東剣道を学ぼうとする人が増えるようになった。これを契機にして上述の協会の組職化と結成が可能になった。

(8)上記の大韓海東剣道協会が組職されて、原告は協会の専務理事、被告は以前と同じく海東剣道研究所長、そして公訴外キム ヒョンジンが協会の代表をつとめることになった。

(9)一方、テレビの『無風地帯』が視聴者から人気を集めている中、被告は番組の中で自身を剣道 7 段であると紹介したことに對して、1989 年 6 月 30 日『大韓剣道協会』が被告を『似以非剣道教習所運営及び剣道 7 段詐稱』で告訴した。しかし被告は、自分は海東剣道協会の所属であり、海東剣道 7 段の段証を持っているため、大韓剣道協会の資格とは無関係であると主張して、逆に大韓剣道協

会を告訴した。

その後被告に対する捜査過程でキム ヒョンジンが代表者になった海東剣道体育道場と大韓海東剣道協会が発給した有段証が提出されたことによって、容疑なしとの意見で捜査が終決するなどの紆余曲折を経たが、これによってむしろ世間には被告と海東剣道の名前が広く知られることになった。

(10)一方、上記のように海東剣道が一般に広く知られるようになり、これを学ぼうとする人々の数が全国規模で増えることによって大韓海東剣道協会に加入する道場数も増し、その結果、加入費や会費徴収・使用など協会の運営と関わって協会内に不和が生じ、遂に 1991 年 11 月には大韓海東剣道協会が分裂するに至る。被告はその後『海東心剣道協会』を立ち上げ、その代表者職を引き受けながら、1991 年 11 月 13 日にソウル特別市にその社会团体登録を終えた。

(11)被告は 1992 年 1 月 27 日、自ら立ち上げた『海東心剣道協会』を解散し、再び大韓海東剣道協会に復帰するが(『海東心剣道協会』はその後『心剣道協会』と改称して今日に至っている)、その後にも原告の金正鎬と所属道場主の間で金銭問題と関わる訴訟がおこされ、一部道場が離脱している。

1992 年末頃には、分裂により協会を離れた道場主らによって『韓国海東剣道協会』が結成され、被告はその会長に就任する。そして、1993 年 1 月 25 日、韓国海東剣道協会は社会团体登録を終え、現在に至っている。

(12)被告が会長をつとめる韓国海東剣道協会は、大韓海東剣道協会が教える剣法の内容すなわち前述した『海東剣法概論』に記された心相剣法、双手刀、鋭刀、本国剣法、長白剣法、双剣法、撃剣以外に、双手剣法、片手剣法、左方剣法、右方剣法、臥右剣法、臥左剣法、モングボック剣法、飛燕剣法など(これらは主に心剣道の内容であるように見える)の剣法を教えている。つまり相当部分を共有しているのである。

一方、現在国内には原告の大韓海東剣道協会と被告の韓国海東剣道協会以外に、『国際海東剣道連盟』『刀法海東剣道会』『韓国伝統海東剣道協会』『海東心剣道協会』など海東剣道を名乗るいくつもの団体が、それぞれ傘下に数十から百余の道場を有して活動している。原告の協会は国内に 160 余 (200 以上であるともいう)、また被告の協会も国内外をひっくるめてそれに相当する数の道場を所属

するのである¹⁰⁾

この判決文から明らかになったのは、まず金と羅の両人は心剣道と気天門を共に学び、そして、その両人は、最初、海東剣道ではなく心剣道と気天門と名乗る道場を開いたことであった。次に、海東剣道という名称の使用については、金正鎬はこの名称は自分が使い始めたとするが、使用開始年が 82 年、84 年と異なっていることから、その信頼性は低いとされ、1984 年のチェ テミン牧師の教示によるものである方が信憑性が高いとされたことであった。

さらに、1987 年にソウル市江南教育区庁に「海東剣道体育道場」という名称で事業者登録を行い、2 年後の 1989 年に「大韓海東剣道協会」を設立するなど組織化を進めるが、「体育道場」という名乗りからは、当時は武芸あるいは武道という強い意識はなく、むしろ体育の一部と理解されていたであろうことが伺える。

今回の判決が出された以後、「韓国海東剣道協会」では、従来のような歴史的主張はしなくなった。協会のホームページ（2010 現在）の海東剣道の歴史¹¹⁾では、羅漢一が法廷で証言した内容がそのまま掲載されている。もっとも、金正鎬との関係は言及されていない。

他方、金正鎬が率いる「世界海東剣道連盟」はそのように事実が明らかになったにも関わらず、従来の主張を守りつづけているのである。

3. 海東剣道の誕生説話の分析

以上の法廷による判決によって、海東剣道は 1980 年代に新しく創られたものであることが明らかになったが、世界海東剣道連盟と韓国海東剣道協会が自らの起源説明の中で言及した武芸集団のサムランという発想はどこから生まれたのであろうか。

2 つの海東剣道団体がサムランに言及するのは、団体設立以後（1980 年代）のことであるが、設立以前、1960 年代に既にサムランに関わる問題を提起した人物がいた。

韓国海東剣道協会の上述したホームページで、サムランは高句麗時代に武勲のある青年

¹⁰⁾ ソウル高等法院 前掲書

¹¹⁾ 韓国海東剣道協会、<http://www.koreahaedong.org/>、2010 年 2 月 10 日

を意味しているが、同時に百済で行われていた武士道はサウラビと称されたことを載せている。このサウラビについて初めて言及したのが、小説家の金英坤であった。彼は 1962 年に新羅時代の武士で英雄の「朴提上」の生涯を扱ったテレビドラマで、彼をサウラビと称したのであった。この言葉は歴史的に存在したことはなく、彼自身が 1962 年 11 月 20 日の東亜日報誌上で書かれているように彼の造語であった。

その後 1976 年に刊行された『韓国歴史大衆文学全集』の中で、このサウラビは、高麗の武士を言うのに「高麗サウラビ」などと用いられている。また、1981 年には、東亜日報の 4 月 5 日紙に、漢陽大学の数学教授であった金容雲の発言として「三韓、三国時代支配層であった武人サウラビが日本に移駐した後、発音が転音してサムライと称されるようになった」という記事を載せていた。

この金容雲という人物は、1927 年東京に生まれ、早稲田大学を卒業後、アメリカとカナダの大学院に学び、数学を専攻する傍ら、日韓比較文化研究に関心をもち『韓国人と日本人』、『日本人と韓国人の意識構造』、『韓日民族の原型』など、いくつもの著書を出版している。上述した 1981 年の金容雲の新聞発言（百済の武士を意味したサウラビは日本に渡って後にサムライに転訛した）、また 2010 年には、『天皇は百済語でしゃべる』（日本語訳は『日本語の正体』）を出版するなど、日本文化を韓国文化のバリエーションとする視点の著作で知られた文化人である。

時事で、サウラビはさらに時代をさかのぼって三国・三韓時代に比され、また日本語であるサムライとの関係し、サムライを用意したより古い韓国語サウラビという接越関係を定立せしめている。

こうした中、1984 年には、イ ドゥヨン劇映画武術研究会が主催し海東剣道協会が後援したオーディションにおいて、制作題目は「サウラビ」と記されたのである。（写真 15 参考）ここで、サウラビはサムライの原語であり、純粋な韓国語であると述べられている。また、1993 年には、日本のゲーム制作会社 SNK が「SAMURAI SHOWDOWN2-真 Samurai spirits」のソフトを発売するが、その韓国版を「真サウラビ闘魂」と題して売り出したのであった。SAMURAI をサウラビと改称したのは韓国側のスタッフであったが、このことはサウラビがサムライに対応する語で、サウラビの語が韓国において十分に定着しているとの認識があったことを示唆する。

こうした中、1995 年には、映画「サウラビ」製作の公告が京郷新聞に発表された。結局、この映画は様々な事情で 7 年後の 2002 年に公開されている。さらに、1997 年にはキム ジ

ヨンイルの小説『サウラビ』、2007・2008年には、カウイーのファンタジー長編小説『サウラビ ルン』(Ssaulabi Loon)、2008年には雪狼のピュージョン歴史長編小説『サウラビを導く者』が出版されている。

こうして、1962年の金英坤の造語以後、サウラビは韓国社会において、日本のサムライの権威を借りながら逆に韓国古代武士の歴史的正当性を担保する語として定着していく。その結果、1980年代から韓国で出版された国語辞典には「サウラビ」が「武士」の意味で採録されるようになり、また国の機関である国立国語院もサウラビを「武士」と解説している。つまり、サウラビは確かに今日の韓国語とされているのである。

こうしたサウラビをめぐる現象において、海東剣道は、いち早く、これを自らの起源説に取り込んで、自身の歴史的正当性を主張しようとしたことがわかる。そして、その時、サウラビが百済の武士を言ったのに対し、海東剣道は百済より更に古い高句麗の武士について「サムラン」の語を当てるという戦略を選んだのであった。

しかし、国語辞典では、サウラビは載っているものの、サムランの語はいまだ採録されていないことも付言しておこう¹²。

第2節 海東剣道の普及と展開

1. 海東剣道の普及過程

海東剣道は、真剣を用いた太刀筋の稽古法という内容によって、それまで行われていた日本伝来の竹刀を用いる剣道との差別化をはかり、そのことで韓国の伝統武芸性を表明し、多くの人々に韓国の伝統文化であることをアピールした。そして、伝統文化に対して関心が高まった1980年代から今日までの30年の間に、海東剣道は飛躍的な普及成長をとげた。韓国内で海東剣道を名乗る団体は24にのぼるが、その中で特筆すべきは世界海東剣道連盟で、この団体は国内に560余の道場を持ち、外国の33カ国に支部を置いていることだ。

それでは、海東剣道は短期間のうちにどうしてこのような成長が可能であったのか。

¹² サムランに関する調査は、国史編纂委員会韓国史データベース <http://db.history.go.kr>、国立中央図書館 <http://www.nl.go.kr>、国立国会図書館 <http://www.nanet.go.kr> に保管されているデータベースを利用した。

(1)他流道場の海東剣道への転向

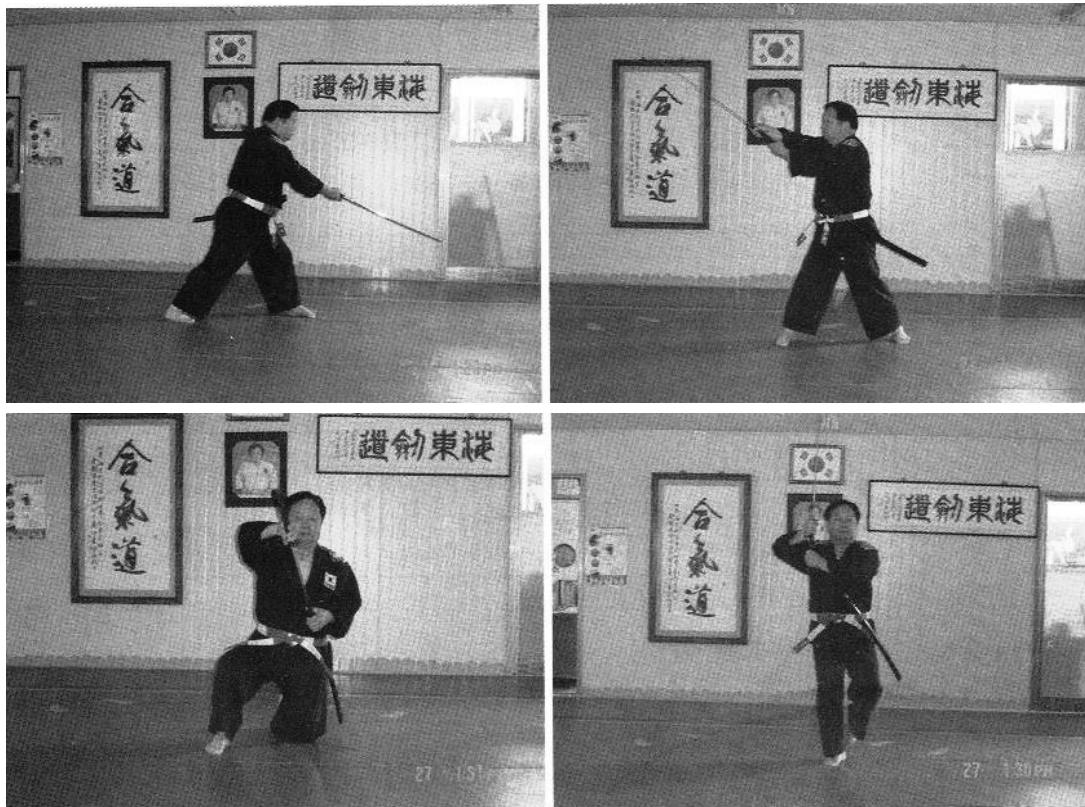
70年代から80年代にかけてソウル市内には100余りの中国武術道場があった。そしてハプキド（合気道）の道場も今よりは多かった¹³。

だが、多くの道場は経済的に恵まれた環境になかった。90年代、海東剣道はそれらの道場に対して海東剣道への転向勧誘活動を行い、多くの道場は海東剣道が持っている優れた商業性と収益性にひかれ、海東剣道への転向を決めたのであった¹⁴。

2003年版の『韓国の武芸団体现況』を見ると、剣道種目として分類された25団体の内13団体が海東剣道を名乗っているが、それら団体の代表者の履歴を見ると、海東剣道以外に、合気道、テコンドー、キックボクシング、中国武術など複数の武芸を修練した人が多くあった。それもほとんどが5段以上の長い修練経歴を持っていた。こうした転向した人達は海東剣道のレッスンを受けたものの、なお上掲『韓国の武芸団体现況』に載った写真では、その未熟な技法が多く見られた。

¹³ MARS、前掲書、p.60

¹⁴ MARS、同書、p.60



〈写真 16〉未熟な海東剣道の試演の例(『韓国の武芸団体现況』より)

未熟な動作とともに後ろには合気道の文字と試演者は柔道の紅白帯を巻いていることから、本来海東剣道の道場ではなかったことがうかがえる

以上、海東剣道の短い歴史から推すと、現在海東剣道を名乗っている団体の中には、先に他の武芸を学んで後に上述の 90 年代に海東剣道へ転向したものが多いといえよう。

(2)海東剣道の段証は短時間で取得できる

武芸種目によって異なるが、例えば 4 段を取得するには普通 5～10 年の時間がかかる。

しかし、初期の海東剣道は早い昇段は協会にとって経済的な大きいメリットがあると同時に、修練者にとっても励みになるとの判断を行った。そしてそれが海東剣道の勢力拡大をもたらした。この短時間で段証が取れるシステムは多くの修練者を呼び、それと共に加盟道場数も増加したのである¹⁵。

¹⁵ MARS、同書、p.60

他流道場がまるまる海東剣道へ転向する現象も生じた。この時、他流武芸道場の運営者が海東剣道へ転向するには、師範短期研修を受けることになったが、それは普通2カ月の間、1週間に1回の修練で、本国剣法7番までを学ぶもので、これにあって彼は4段を授与された。さらに期間を短くして、4日くらいでまとめて修練して4段をもらう時には、500万ウォンを支払えばよいとされていた¹⁶。

(3)支館の開設が容易である

現在、韓国では「大韓剣道会」（日本と同じ竹刀打ち式剣道の団体）が有一の団体として大韓体育会に加入している。それ故、大韓剣道会所属の道場は「体育施設の設置・利用に関する法律」によって、体育道場業としての体育施設業申告が必要であり、一定基準の施設と「生活体育指導者」という国家資格保有者が必ず必要になる。

しかし、海東剣道は自営業として、以上のような基準が適応されないため、簡単に道場を開くことができるのである。

こうした背景を踏まえて海東剣道を見ると、確かに段証の早期発給は支部道場の開設増につながっている。そして、それには金銭問題がかかわっている。世界海東剣道連盟の場合では、支部道場開設費として500万ウォンを受け取り、その中から連盟に300万ウォンを上納すると、残りは支部長と出身道場主とで分けるという形であった¹⁷。

要するに、支部道場の開設は、連盟と道場主双方の利益につながるいわゆる家元形で行われるものであり、法律的な容易性とその独自の収益システムが海東剣道系道場の急速な増加をもたらした主な原因であったと考えられる。

こうした他流道場の転向、早急の段証の発給、容易な支館の開設は海東剣道を急速に広まる原動力になった。従来各々の武芸団体は他流との交流をほとんど行わなかったことに対して、海東剣道は交流ではなく海東剣道に種目を替えさせたことは、勢力拡大のためのこれまでなかった新しい発想であった。

しかし、短時間の段証発給と金銭がらみの伝授体系は海東剣道の質を低下させ、武芸が

¹⁶ MARS、同書、p.60

¹⁷ MARS、同書、p.60

本来持っている修練や鍛錬の意味を稀薄化させる可能性をもつといえる。また種目を替えてまでも生き残らざるを得なかった貧弱な韓国武芸界の状況を断片的に表すことでもある。

海東剣道は、韓国武芸が道場経営者にとって、個人の修行的営みではなく、利益を創出する商品と認識されていることを示す顕著な例であると言える。

2. 海東剣道の海外進出

海東剣道は民間の武芸団体として海外への普及に積極的である。他にどれくらいの数の武芸団体が海外へ進出しているかは正確に把握されていないが、いわゆる韓国発の武芸として、これほど大規模で海外に普及するのは、テコンドーを除いてはないと考えられる。

では、外国人が見る海東剣道とはいかなるものであろうか。

以下は、世界海東剣道連盟が 2000 年に開いた大会に参加した外国人選手のインタビューの内容である。

「真剣を持って行う韓国武術ということに心が魅かれて学び始めた・・・韓国の精神を学ぶことができ、また身体鍛錬にもなる。

剣道（日本）を習う時と比べて海東剣道が違うのは、比較的頻りに真剣で修練することだ。フェンシングは刺す動作が多く競技中心である。フェンシングでは海東剣道のように切る練習はしない。竹切りや蠟燭の火切りのような修練も初めてである。海東剣道のような剣法は珍しい¹⁸⁾

このように外国人にとって海東剣道は、竹刀打ち剣道やフェンシングとは違って真剣を操って物を切る剣法である事に興味が示され、また韓国の精神文化が学べる手段と認識されていた。

もちろんこれが全てではないが、こうした海東剣道の真剣を使う特徴は、東洋の剣の文化が、香港の武侠映画や日本のサムライ映画などによってすでに西洋に広く知られていたことを前提として、その神秘的なオリエンタル文化を、見て楽しむのではなく、実際に剣を握って動いて切って感じる体験文化として実現させたところに大きな意味があったと言

¹⁸⁾ MARS、「龍坪は海東剣道の世界」、2000、9-10月号、pp.20~21

えよう。

世界海東剣道連盟による海東剣道の海外進出は 1990 年代の半ばから始まったと見られる。特にその主なマーケットであるアメリカへの進出の仕方は、海東剣道海外戦略のモデルとして用いられた。

以下は「武芸新聞」の記事であるが、そこには世界海東剣道連盟がアメリカに進出した初期の様子が描かれている。

「1995 年から知的財産権の確保のため世界 50 余カ国において海東剣道の商標登録を行った。以後、1997 年『全米州体全』（全米州韓人体育大会）シアトル大会を皮切りに、米国の韓人居住地域から海東剣道の海外巡回示範を始めた。これをきっかけに、海東剣道に対する魅力と必要性を感じた海外のテコンドーとハプキドの師範たちが、海東剣道を学んで自身の道場の公式プログラムとして採択することを始めた。このことによって、海東剣道は驚くほどの成長を見せた¹⁹⁾」

こうして世界海東剣道連盟は、海東剣道を商品として扱い、テコンドーあるいはハプキドが構築していたマーケットを利用して拳と共存する道を選んだ。もちろんこれは、既存の道場が修練者の欲求に答えるために、これまでとは全く違った新しいプログラムとして海東剣道を選んだものであったが、そのテコンドーやハプキド道場への普及は、海東剣道にとって、失敗する危険性を最小限に抑えて、海外で定着する結果をもたらした。

また、韓国内では海東剣道の創作をめぐる問題や他流からの転向など様々なゴタゴタから完全に抜け出すことはできなかったが、アメリカではそうした事件とは関係なく、ただテコンドーと同じ韓国武芸の 1 つとして見られていたことも、海東剣道がテコンドーと共存しながらごく短期間のうちにアメリカに定着した原因であると考えられる。

¹⁹⁾ 武芸新聞、<http://www.mooye.net>、2008 年 12 月 2 日



〈写真 17〉 海東剣道のアメリカ修練風景、2009 年 2 月(世界海東剣道連盟より)



〈写真 18〉 アメリカでの指導者セミナー、2009 年 2 月(世界海東剣道連盟より)

下の写真には WTF(右)と国技院(左)の徽章が掛けられている



〈写真 19〉 第 3 回 Western U.S.A. 指導者セミナー、2009 年 3 月(世界海東剣道連盟より)

後ろの真中に WTF テコンド一の徽章とテコンド一道着を着ている人が見られる

さらに、海東剣道の国際化は、こうした既存他流道場への普及に止まらず、各種の国際大会を通じても果たされた。海東剣道による国際試合は、国内大会、ヨーロッパ大会、パンアメリカン大会などの大陸別、そして全大陸を統合する世界大会がある。世界大会はこれまで 4 回（2008 年第 4 回）開かれている。



〈写真 20〉 2008 年海東剣道世界大会ポスター(世界海東剣道連盟より)

世界海東剣道連盟はこうした国際大会をテコンドーと共同開催する計画を立てた。これは、2009年7月にメキシコで開かれる予定であった「パンアメリカン海東剣道大会」とテコンドーの「金雲容カップ・テコンドー大会」を同時共同開催するものであった。

2008年11月5日、金正鎬は前 IOC 副委員長であった金雲容に金雲容の名を冠した大会を開きたいと申し入れた。金雲容の答えは YES であった²⁰。そして、「2009 金雲容カップ・テコンドー大会及び第 1 回世界海東剣道パンアメリカン大会」の名の下に、2009年1月5日には大会組織委員会が創られるなど、大会の準備が進められていた²¹。しかし、2009年5月にメキシコで発生した新型インフルエンザによって中止を余儀なくされ、延期して開

²⁰ MOOKAS、http://www.mookas.com/media_view.asp?news_no=8569、2008年11月6日

²¹ 日刊スポーツ、<http://isplus.joins.com/article/article.html?aid=1074771>、2009年1月5日

催されることとなった²²。



〈写真 21〉 2009 年金雲容カーブ大会のポスター(世界海東剣道連盟より)

こうして大会は一旦中止になったが、それは世界海東剣道連盟の良い戦略であったと思われる。金正鎬は開催主旨を、海東剣道の世界化はテコンドーがすでに国際的に定着していたからであって、テコンドー世界化の立役者である金雲容の名前を揚げた大会を開くことは、その恩に報いることに外ならないと表明していたのである²³。

だが、これは角度を変えると、金正鎬にとっても金雲容にとっても、WIN AND WIN のことであったと考えられる。

IOC の副委員長、また WTF の総裁、そして国技院長であった金雲容は世界のスポーツ界に大きな影響を及ぼす人物であった。しかし、2004 年公的資金に対する横領の容疑で、IOC 副委員長、WTF 総裁、国技院長の職を辞することになり、その過程で彼の名声は地に落ちてしまった。

²² MOOKAS、http://www.mookas.com/media_view.asp?news_no=9715、2009 年 5 月 15 日

²³ MOOKAS、http://www.mookas.com/media_view.asp?news_no=8569、2008 年 11 月 6 日

こうした状況の中で金正鎬による提案は、彼の名誉の回復と世界テコンドー界における健在ぶりを誇示する効果があった。そして、金正鎬は金雲容というテコンドー界とスポーツ界の大立物と連携を結ぶことによって、テコンドーと海東剣道の関係をより深く保ち、海外での海東剣道普及の足場を一層強く固めようとしたのであった。またテコンドーと対等な関係での開催は、海東剣道の権威上昇とそれによる広告効果の増を招来したと考えられる。

3. マクドナルド化:海東剣道の経営戦略

世界海東剣道連盟は徹底的な市場論理によって、海東剣道を商品化することを考えた。武芸という固いイメージから脱皮し、誰でも簡単に学べる運動であることを主張して現実に合わせたのである。1986年には、これまで多くの武芸が地下や2階以上に道場を設けていたのに対し、ガラスを通して外から見られる道場を創り、夏場には汗によって重くなる道着の代わりにTシャツ1枚での行う練習を始めた。そして、忙しい社会人のために早朝クラスを開くなど、従来の武芸団体とは異なる個性的な戦略を持ち出した²⁴。

世界海東剣道連盟はまた、修練課程の体系化と統一化を進めた。統一化することで、世界中の全ての道場で同じサービスを提供することが可能になり、修練者も混乱なく同じサービスを受けることができるようになったのである。これは、韓国内でも同じであった²⁵。武芸のマクドナルド方式と言えよう。

以下は、「世界海東剣道連盟紹介書」である。これは、世界海東剣道連盟の会員募集のため作られたもので、連盟の歴史、教育体系、教育ビジョン、支援体制、今後の計画などが記されている。

²⁴ 武芸新聞、2008年12月2日

²⁵ 世界海東剣道連盟 金正鎬とのインタビュー内容、2009年



(社)世界海東劍道連盟 紹介書



2008. 09

(社)世界海東劍道連盟

Information

- 연맹개요
- 연혁
- 국내 보급 현황
- 해외 보급 현황
- 국내 도장 실태 파악
- 소속 지도자 혜택
- 협력단체
- 비전/미션
- 경쟁력 포인트
- 조직구성
- 수련체계
- 일선 지도자 지원체계
- 일선 도장 지원체계
- 신규 도장 지원체계
- 이적 도장 지원체계
- 무도원 건립 계획
- 중장기 계획
- 4대 핵심 계획

□ 連盟概要

団体名	(社)世界海東剣道連盟 大韓海東剣道協会
代表者	総裁 金正鎬
設立日	1982년 7월 24일
所在地	대한민국 경기도 광주시 오포읍 능평리 211-1 해동검도원B/D 201호
連絡先	Tel: 031-714-4471,2 Fax: 031-715-5433 Email: ihaidong@korea.com
道場数	全世界に1800余(国内600余、海外1200余)
会員数	全世界に120万人
HP	http://www.hdgd.org

□ 沿革-1

世界海東剣道連盟は1982年7月、最初の道場を設立。海東剣道の源流として、その歴史と理念、技術及び修練体系は、海東剣道を名乗る他の団体とは比較されないほど深い。

- 1961. 金正鎬総裁が長白山師匠から海東剣道を伝授
- 1982. 07 最初の海東剣道道場 開館
- 1983. 04 大韓海東剣道協会創立
- 1989. 05 大韓海東剣道協会 社会団体登録
- 1993. 02 武道団体として初めて日刊紙の広告を始める
- 1994. 01 武道院建立計画の樹立
- 1995. 08 EBS教育放送に海東剣道講座を放映
- 1996. 11 社団法人 世界海東剣道連盟創立
- 2000. 07 2000海東剣道全国大会開催
- 2002. 07 2002第1回海東剣道世界大会
- 2002. 12 海東剣道研修院(海東剣道院)

□ 沿革-2

海東剣道はアメリカ、ヨーロッパを含め海外20ヶ国において商標登録されており、世界51ヶ国においてその国の人達から爆発的な人気と称替をうける大韓民国の伝統武道である。

Haidong Gundo History

- 2003. 02 忠清大学と産学協同協約締結
- 2004. 03 湖原大学と産学協同協約締結
- 2004. 05 大邱未来大学と産学協同協約締結
- 2004. 07 2004第2回海東剣道世界大会開催
- 2005. 05 武道院建立の説明会
- 2005. 10 水原大学と産学協同協約締結
- 2005. 11 恵泉大学と産学協同協約締結
- 2006. 03 明知大学と産学協同協約締結
- 2006. 07 2006第3回海東剣道世界大会開催
- 2006. 09 西京大学と産学協同協約締結
- 2006. 10 霊山大学と産学協同協約締結

□ 沿革-3

海東剣道はアメリカ、ヨーロッパを含め海外20ヶ国において商標登録されており、世界51ヶ国においてその国の人達から爆発的な人気と称替をうける大韓民国の伝統武道である。

Haidong Gundo History

- 2007. 05 海東剣道世界MASTERSセミナー
- 2007. 06 第1回海東剣道ヨーロッパ大会
- 2008.07 2008第4回海東剣道世界大会

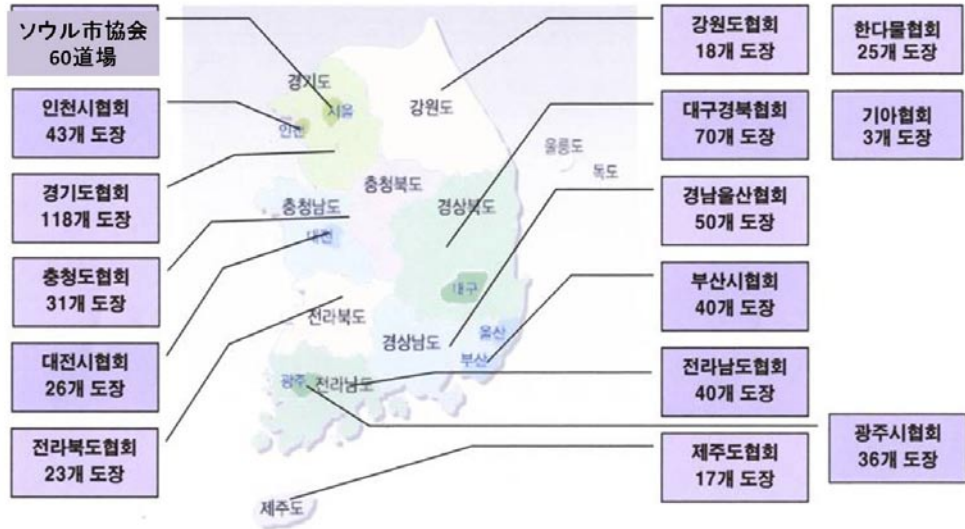
海外活動部分

1996年11月(社)世界海東剣道連盟の創立を初め、
現在まで

- ・51ヶ国に独占普及
- ・31ヶ国のナショナル協会の創立
- ・20ヶ国に“海東剣道”商標登録
- ・海外1500余の道場開設
- ・100余の演武とセミナー開催
- ・4回の世界大会開催
- ・10回のナショナル大会開催

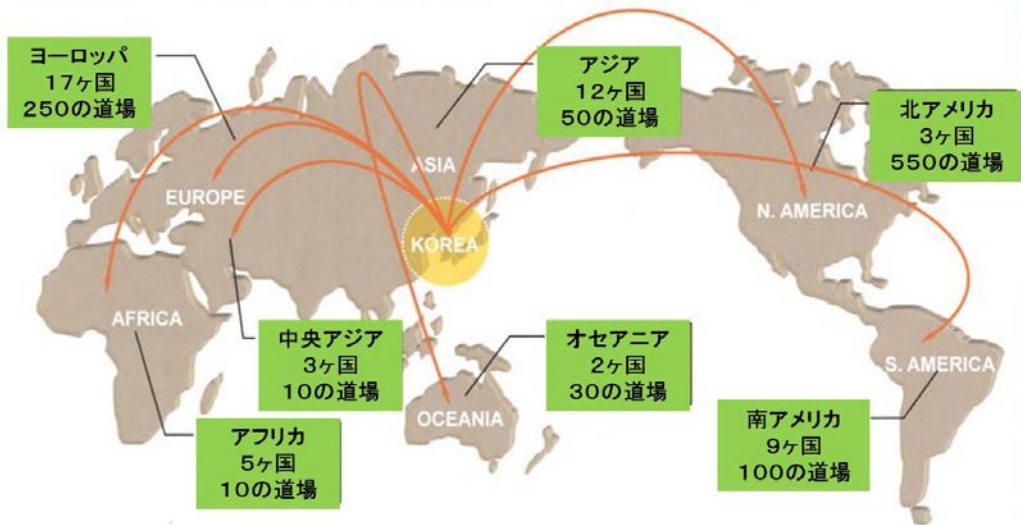
□ 国内普及現況

15協会、607道場、1000余の学校・職場サークル



□ 世界普及現況

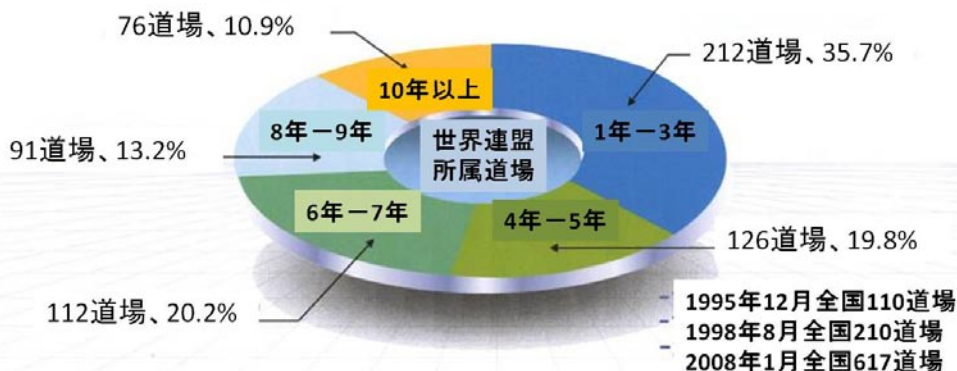
51ヶ国に普及、31のナショナル協会、1000余の道場



□ 国内道場実体把握

世界海東連盟は名門道場育成の産室である。

- ・世界連盟に加入するは中級以上(5年以上運営)が中心であり、これは指導者たちの努力と世界連盟の持続的な支援が作り上げた結果である。



www.hgdg.org

9

(社) 세계해동검도연맹

□ 指導者のメリット-1

世界連盟所属の指導者、道場には特別なメリットが与えられる。

1. 指導権と道場経営ノウハウの教授

術技教育(剣法、撃剣、斬り)を含め、審判教育、道場経営教育、教養教育など指導者の質の向上と道場経営方法を体系的に詳細に教える。
また、段証資格、道場設立認証、指導者資格、審判資格を取得できる。

2. 国内外大会への参加

全世界1万名以上が参加する世界大会を含め、パンアメリカ、ヨーロッパ、アジア大会などの大陸大会、アメリカ・カナダ・オーストラリアなど国別で行われるナショナル大会、また国内大会に参加できる。

3. 国内外大会での審査権

昇段審査(1段~3段:12市都協会において毎月実施)と世界連盟主催の高段者審査(4段以上:年2回)、海外で行われる海外段審査、指導者のための道場主審査(年2回)に参加できる。

www.hgdg.org

10

(社) 세계해동검도연맹

□ 指導者のメリット-2

このメリットは本団体以外の指導者にも与えられる。

4. 広く社会に認められたメディアへの道場広告

国内日刊紙に全面広告(道場名、道場主名、電話番号を掲載)を含む、各種メディアへの広告、インターネットへの広告、カタログ・ポスターの定期的な製作と配布。

5. 道場経営の支援

道場開設場所の検索、道場売買、道場経営支援(海東2004プログラム:道場ホームページ、道場経営プログラム)、広告活動など、道場の設立と経営、広告全般に関わって支援する。

6. 海外活動の支援

海東剣道が普及されている海外51ヶ国、31ナショナル協会を通じて、海外へ道場設立、指導者の派遣、海外巡回演武、海外道場の探訪など、海外進出活動を支援する。

□ 指導者のメリット-3

メリットの幅はさらに広がる。

7. 大学編入学及び学位取得時の支援

所属道場主、師範、会員には、世界連盟と産学協同協約を結んだ大学、大学院に多くの支援を受けながら、編入学ができ、学士、修士学位が取得できるチャンスを与える。

8. 師範教育と師範の派遣

道場経営に必要な師範、教範、運転手などの人的支援と定期的な師範教育を実施。

9. 用品提供支援

世界連盟では1982年から道場で使われる全ての用品を自ら製作して普及している。現在にも道着・木剣・靴・仮剣、格闘剣など15種50品を各道場に低価で提供している。

□ 協力団体-1

産学協同協約締結大学



- ・本連盟は以上の大学と産学協同協約を締結して海東剣道学科の開設、専攻の開設、教科目の採択などの方法で海東剣道の普及につとめている。
- ・上記の大学に入学を希望する者には、本団体会員の有無を問わず、海東剣道を学んでいることを条件として、入学上の便宜が与えられる。

□ 協力団体-2

地方自治体



全国地方自治体との相力協助関係を通して、自治体が主催する行事への参加と支援によって地域社会の発展と海東剣道の普及とに力を注ぐ。

□ 協力団体 - 3

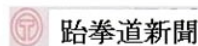
国内団体



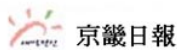
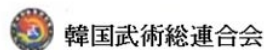
HYUNDAI SUNGWO
RESORT



Kangwon
LAND



国際教育振興院



国内外の各界各層の団体との連携と協調を通して、海東剣道の発展と一線道場の活性化に力になれるように最善を尽くしている。

□ ビジョン・ミッション

Vision

武道人の新世界 武道ワールドの建設

Mission

海東剣道を選択した人全てが、社会的名誉と経済的豊かさを享受し、希望と目標に満ちた未来に向かう

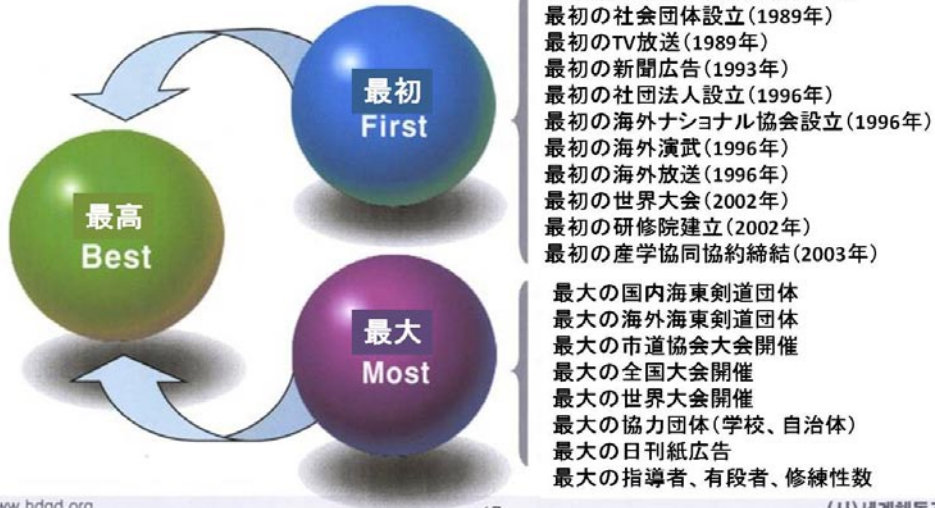
Planning

- ・最高水準の道場育成及び会員数200人の確保
- ・指導者の生活を韓国社会上位10%以内に引き上げる
- ・道場数を2016年までに2万に増やす
- ・海東剣道を身に付けたエリートマンの輩出

□ 競争力ポイント

最初と最大が実現したら次は「最高」です

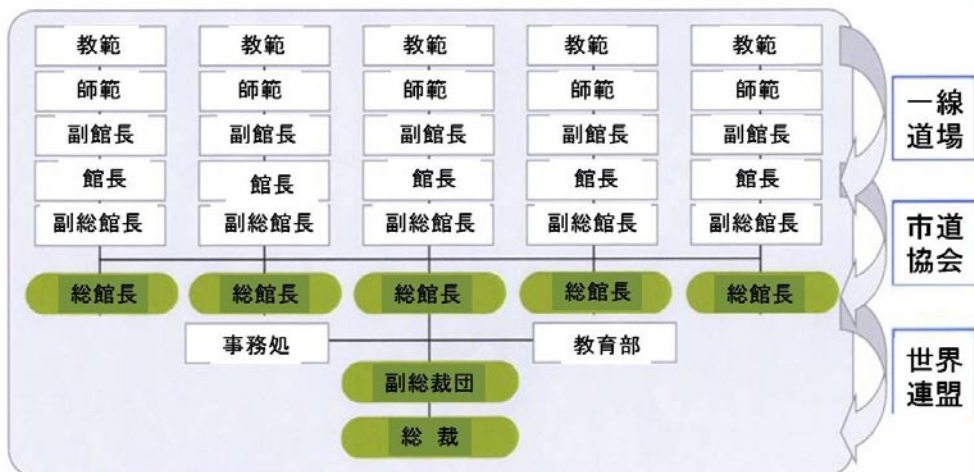
・世界連盟の強大な競争力は、他の追従を許さない。



□ 組織構成

上から下へではなく、下から上へ。

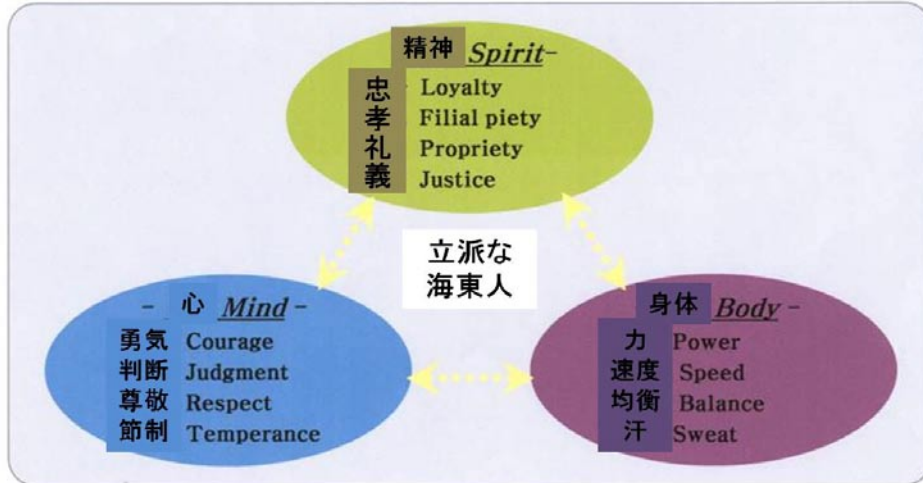
・不必要な要素を排除し、素早く合理的な双方向組織体系での運営



□ 修練体制-1

理念

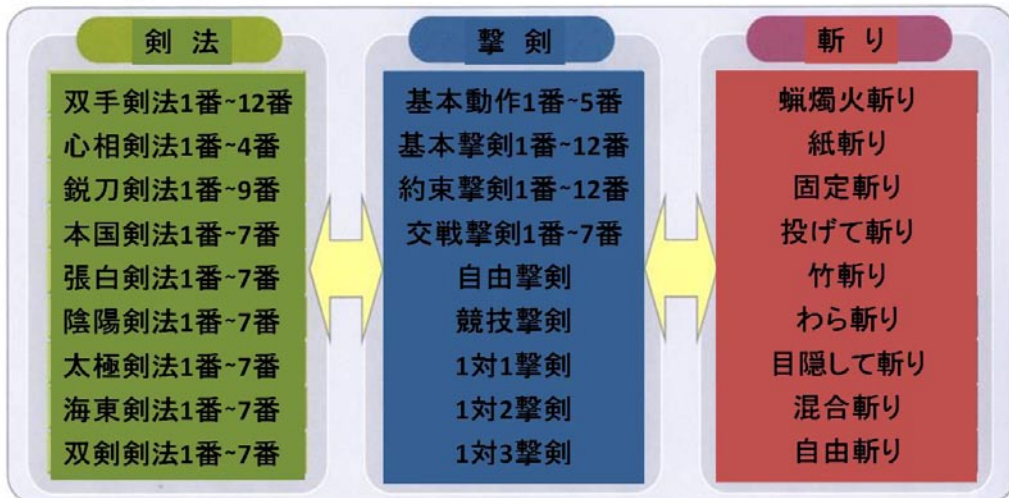
・精神と心、身体のはっきりした理念と目標は武道修練をより貴くする。



□ 修練体制-2

実技

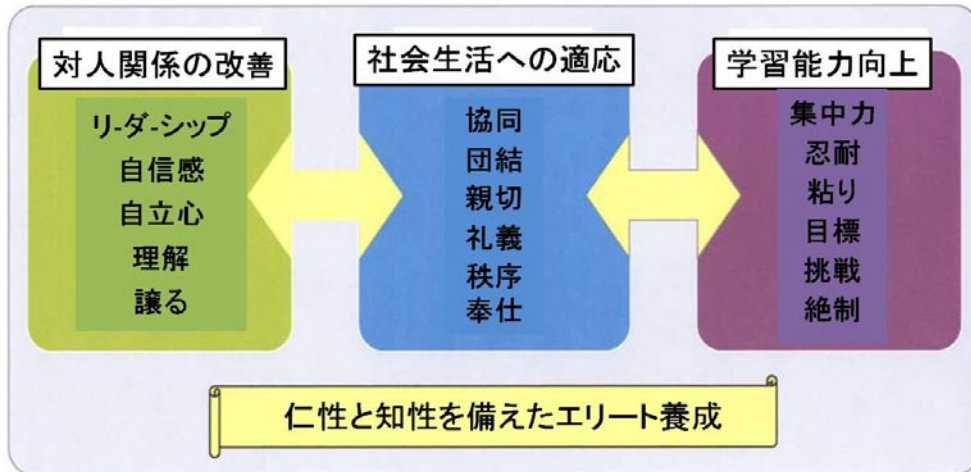
・修練の核になる67型の剣法を軸に、竹刀打ちによる撃拳と真剣による斬りが調和して構成される。



□ 修練体制-3

仁性

・修練理念を元にした仁性教育は修練の重要な部分である。



□ 一線指導者の支援体制

競争力を備えた指導者が競争力ある道場を作る。

・海東剣道指導者のみなさんの後ろを、いつも心強い世界連盟が支えている。



□ 一線指導者の支援体制

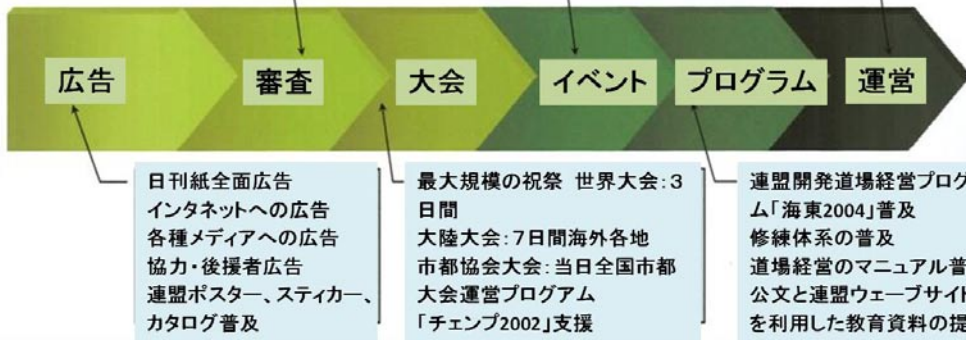
一線道場の競争力が海東剣道の競争力である。

・道場の活性化が海東剣道の発展を導くことを世界連盟はよく知っている。

級審査:審査委員支援
昇段審査:市道協会が主催、所属道場の参加
高段者審査:連盟主催、全国道場の参加

冬:スキー、スノーボード
夏:礼儀、克己キャンプ
武道院訪問
各種演武に参加
海外研修、演武に参加

道場開館及び経営、売上の支援
師範及び研修生の育成支援
代理・委託経営の支援
学生会員の大学入学支援



□ 新規道場の支援体制

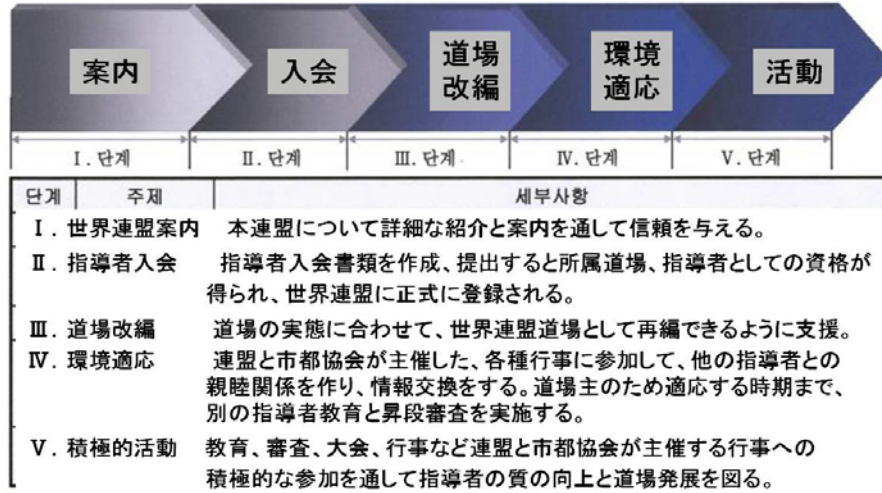
事前の準備から初めての有段者を出すまでを世界連盟は支援する。



□ 移籍道場の支援体制

他団体所属の道場主も世界連盟の家族になれる。

・他の団体から来た道場主も世界連盟所属の指導者として全てのメリットを受け
ることができ、軌道に乗るまで特別のお世話をします。



www.haga.org

25

(사)세계해동검도연맹

□ 武道院建設計画

世界人の武道殿堂である武道院

・全世界の人の武道殿堂である武道院は、武道をメッカとして武道人の故郷である。
また海東剣道のため献身した指導者達の安息処であり、世界的な文化遺産である。



*** 重要施設 ***

- 博物館
- 武道殿堂
- 栄賓館
- 忠孝館
- 有段者広場
- 道場主村
- 有段者村
- 野外修練場
- 野外宿泊地
- 冒険修練路

www.hdgd.org

26

(사)세계해동검도연맹

□ 中長期計画(向後5年)

2006年から2010年までの5年間の中長期計画

体系的な 指導者教育

連盟道場主セミナー(06年-10年):連盟で国内所属の道場主のために年2回実施
市道協会道場主セミナー(06年-10年):市道協会の所属道場主のために年2回実施
他の武道指導者セミナー(06年-10年)武道(海東剣道指導者のために年1回実施

一線道場 の活性化

武道院の部分開院(08年)、武道殿堂の完工後部分的に運営(道場利用可能)
道場経営プログラム普及(07年、09年):‘海東2004’の機能修正及びアップグレード
道場経営マニュアルの開発と普及(07年-10年)
キャラクターの開発と普及(08年):世界連盟のみの独創的なもの

世界大会 大陸大会 国内大会 活性化

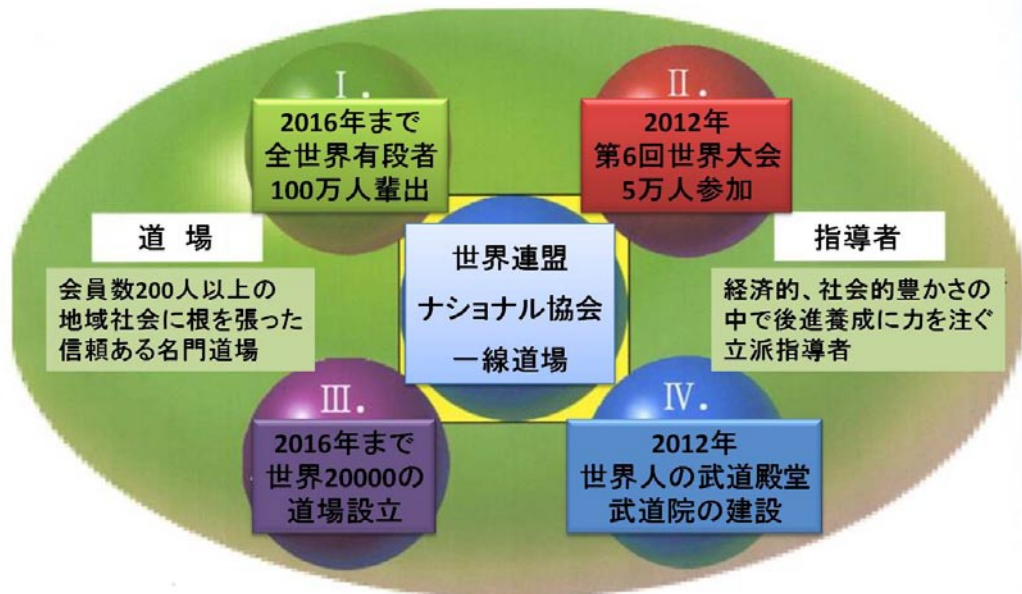
世界大会(06年・08年・10年):全世界から毎回2万名が参加
パンアメリカ大会(08年・09年):全アメリカ大陸30ヶ国参加
ヨーロッパ大会(07年・09年):ヨーロッパ大陸20ヶ国参加
全国市道協会大会(07年・09年):全国13市道協会は主催
大会運営プログラムの補完(06年):大会運営プログラム「チャンプ2002」補完

広く社会に 認められた メディアへの パワー広告

3代日刊紙に全面広告(06年-10年):朝鮮、東亜、中央日報に年4回掲載
海外広告(06年-10年):海外日刊紙、週刊誌、放送、ウェブサイト
ウェブサイト広告(06年-10年):連盟ホームページの機能強化、
ポータルサイトへ広告

www.hdgd.org

□ 4大核心計画(向後10年)



www.hdgd.org

28

(사)세계해동검도연맹

この紹介書は、海東剣道の定着に伴う需要の増加と供給の拡大という一連の動きの中で作成されたものと考えられ、海東剣道が付加価値を創出する一種の商品として扱われていることを示すものであった。すなわち武芸という無形のものが付加価値をつけられることによって、経済的利益を生む有形のものに変わることを示したものであった。

結果的に世界海東剣道連盟の新しいプログラム開発と支援プログラムは、これまでの武芸の道場経営とは異なった発想として多くの武芸人に受け入れられることになり、海東剣道の増加の原因となったと考えられる。

まとめ

1980年代に創られた海東剣道は、真剣技法を導入することで、それまで竹刀打ち一色であった韓国の剣道文化に大きな波紋を起こした。

しかし、多くの人が韓国の伝統武芸として受け入れた反面、その短い歴史性を補うために根拠のない起源をうたい、正統性をめぐって競合相手を誹謗したことや、また勢力拡大のための手軽な段証発給制を他流武芸にもちかけたことなどのことは、海東剣道に否定的なイメージをもたらした。

しかし、修練生の要求に合わせた現実的プログラムの開発とサービスの提供は、武芸が1つの商品として成り立つとの現代的概念を創り、会員数の増加を招いた。そして、多数の海東剣道を名乗る団体が生まれることにもつながった。

その量的拡大と大衆化は海東剣道のイメージを変え、大学の教科目としての採択、大学における海東剣道専攻者の募集、そして2007年から政府機関である学生中央軍事学校（ROTC）選抜試験の武芸種目に選定へとつながった。これらは現在韓国社会の中での確かな位置付けを示している。

このように創られて30年余の新興武芸である海東剣道は、韓国伝統というアイデンティティを強調しながら現代的な経営戦略を導入することで成功を勝ち取ったが、それは、韓国における武芸の新しい生き方を示す典型モデルということができよう。